

■常呂におけるバスの導入・運行に関する年表

(平成18年3月5日の合併までのあゆみ)

※年表の後に、年表を補強するための資料を付けています。年表記載の資料番号と照らし合わせてご利用ください。

和暦	西暦	月日	内 容
大正13年	1924		大正13年頃、網走町の高田助次郎・田辺村次・中川国蔵・木下八郎右衛門・高橋政芳ら5名共同出資で組合を結成、網走ー常呂間の定期旅客輸送開始（網走市史）
大正15年	1926	6月	帯広市小守忠左エ門がフォード乗用者をもって網走・常呂間を運転1日2往復（常呂村史） ※資料1『常呂村史』の詳細 ※資料2、資料3『さろまむかしむかし』から乗合自動車の運行状況と使用していた自動車のイラストと写真（『北見バス20年』掲載） 及川正七が自動車運転の免許を受け、網走町一円の貸切自動車の運転ならびに網走町ー常呂村間の定期旅客運輸を開始、同時に小森守一も同一路線で自動車運転の免許を受け、営業開始（網走市史）
昭和2年	1927		網走自動車会社設立、網走ー常呂間定期1日2往復の運行開始（網走市史） * 実質は大正15年から運行の継続
昭和3年	1928	6月	乗り合いバスが網走ー常呂間を運行（岐阜百年史） 常呂市街住人白木弥市が常呂・網走間定期路線の権利獲得（常呂村史）
昭和4年	1929		乗り合いバスが常呂ー野付牛間を運行（岐阜百年史） 野付牛・常呂定期路線が決定して自動車道路網が完成（常呂村史）
昭和5年	1930		常呂ー手師学間（福山から川東道路）の村道工事が昭和3年に着工、5年に開通。この頃から自動車・馬車などが普及し始める（イワケシュ郷土史）
昭和6年	1931	3月24日	野付牛旭タクシーを野付牛自動車商会在合併し野付牛自動車株式会社創立。同社と常呂白木自動車部と相互に野付牛・常呂間1日3往復となる（北見毎日新聞）* 幌型乗用バス運行 野付牛自動車株式会社が端野の一部を通過する北見-常呂線（北見ー仁頃ー豊実・北登ー福山ー常呂）1日3往復（新端野町史） ※資料4『北見バス20年』から幌型バスの運行状況 ※資料5『網走市史 下巻』から「野付牛ー常呂」「網走ー常呂」の距離・運賃資料 下生田原ー常呂間のバス運行が始まり、岐阜地区の道路を砂埃をあげて走る姿が見られた（岐阜百年史）
			中佐呂間ー常呂に乗合自動車運行を開始し、下生田原ー中佐呂間、中佐呂間ー常呂をバス3台で営業（佐呂間町百年史） ※資料6『さろまむかしむかし』記載の運行開始状況

昭和16年	1941	4月20日	常呂・野付牛間および佐呂間間定期バス開通〔当直日誌〕 ※資料7『網走市史 下巻』から網走ー常呂間、野付牛ー常呂間の料金・所要時間資料 昭和16年6月に生田原自動車合資会社から営業権の譲渡を受けた湧別自動車合資会社は、利便を拡大し、中佐呂間ー常呂（30キロ）、遠軽ー上佐呂間（22.2キロ）、遠軽ー常呂（64.42キロ）の3系統を営業：車両／トヨタ2601型1台、フォード1931型1台、同1934型1台の3台（佐呂間町百年史）
昭和18年	1943	5月28日	北海道庁が「北海道における旅客自動車運輸事業統合要綱」を発表し、網走管内12バス業者が企業合同により北見乗合自動車株式会社が誕生（北見現代史） ただちに、北見・留辺蘂・佐呂間・温根湯・常呂に営業所設置（北見現代史） ※資料8『網走市史 下巻』『北見バス20年』から代燃バスに関する資料 ※資料9『北見現代史』から北見乗合自動車株式会社創立時のバス路線図
昭和21年	1946	9月	北見乗合自動車株式会社が北見バス株式会社となる ※資料10『北見バス20年』から北見バス冬期間運行の困難状況
昭和26年	1951	4月1日	北見バス網走支社設立（網走バスの前身）、営業の拡大強化、 * 常呂線（大曲三眺入口ー常呂：31.1km）（網走バス50周年記念誌）
		12月28日	網走バスに常呂ー卯原内間運行の正式免許認可（郷土史うばらない） * 当時は、北見バス株式会社網走支社 ※資料11『郷土史うばらない』から走行したバスの写真
		10月31日	豊川郵便局が郵便運送バス（北見バス）託送開始 （オホーツク東北見地区郵便局の歩みと先人の足跡）
昭和27年	1952	1月1日	網走バス株式会社発足、社長横道四郎（網走市戦後年表）
		6月2日	北見バス会社常呂営業所敷地調査：多田バス会社社長来庁（当直日誌） 栄浦道路測量（当直日誌）
		10月21日	北見バス会社常呂営業所落成式（当直日誌） ※資料12 昭和35年と40年頃の営業所・バスの写真、 ※資料13「昭和29年発行 常呂町市街案内図」記載の北見バス常呂営業所の位置 ※資料14 昭和30年代前半の運行しているバスの写真（常呂橋・本通り）
		12月5日	豊川郵便局の郵便運送バス託送便廃止（オホーツク東北見地区郵便局の歩みと先人の足跡）
昭和28年	1953	7月2日	網走国定公園調査団一行栄浦へ船より上陸、バスにて網走へ（当直日誌）
昭和29年	1954	3月30日	大正11年準地方費道に指定された常呂野付牛線が、道道北見常呂線に認定、北見との連絡道路と

			して重要な路線に（常呂町百年史）
昭和30年	1955	1月17日	ライトコロ川切り替え工事箇所（救農）及び栄浦道路橋設置箇所調査（当直日誌）
		11月21日	栄浦橋架け替えについて道路促進話し合い（当直日誌）
		12月17日	道開発局総務課長他2名来町、栄浦橋工事を見る。町長同行（当直日誌）
昭和31年	1956	4月5日	網走開発建設部において栄浦橋新設工事入札（当直日誌）
		4月30日	バス運行路線調査のため町長・議長案内する（当直日誌）
		5月14日	栄浦バス運行予定道路調査：町長立ち会い（当直日誌）
		6月1日	北見バスが常呂－栄浦間に定期バス1日3往復（片道45円）運行 常呂発：7時 10時 15時10分 栄浦発：7時40分 11時 15時50分 （限定版 網走管内ニュース年報 昭和31年～32年 記載新聞紙名不明） ※資料15 「限定版 網走管内ニュース年報」からバス運行記事
		8月1日	常呂町観光協会設立：於議事堂（6.23発会式）（当直日誌）
昭和32年	1957	4月15日	北見バス株式会社、常呂－栄浦間バス運行開始（常呂町百年史） *確認できる資料不明
		5月1日	栄浦橋改修工事着手（当直日誌）
		5月30-31日	北見バスガイド及び旅の会一行49名観光視察：ワッカ及栄浦（当直日誌）
昭和33年	1958	5月30日	北見バスガイド旅行会一行観光：ワッカ、栄浦（当直日誌）
		5月31日	北見バスガイド旅行会一行49名町内観光（当直日誌）
昭和35年	1960	5月20日	市街地国道の舗装工事着工（鈴蘭から野辺鉄工所まで）（広報ところ） 本通りから大通りまで片側通行（5月15日から9月30日）（広報ところ）
			道道北見常呂線、駅前から530m舗装（常呂町史）
			「針田鉱業株式会社国力事業所概況書」に「北見・常呂間は毎日4回乗合自動車が連絡…北見より1時間余り、北見共立駅より約30分程度の所要時間にて事業所前鉄山停留所に到着」記載
昭和37年	1962	2月	常呂・日吉間の郵便物配達がバス輸送になり、3日間から翌日配達へ（広報ところ）
		8月1日	常呂から国道238号を起点として鑑沸・栄浦を経てふたたび国道につながる路線が、道道サロマ湖公園線に認定（常呂町百年史）
昭和38年	1963	5月4日	常呂町と北見バス共同出資のサロマ湖観光株式会社創立総会打合せ（北海道新聞） サロマ湖観光株式会社設立（常呂町はかき島荘を現物出資、北見バス会社は3百万円を出資して資本金6百万円。経営主体は北見バス。新会社ではユースホテル40ベッド新築（広報ところ）
		5月8日	北見バス会社のサロマ湖観光路線運行開始：夏季のみ *網走国定公園サロマ湖周遊観光路線（計呂地－富武士－ウルリントー－常呂）（佐呂間町史） *留辺蘂－富武士－栄浦－常呂

			遠軽ーサロマ湖ー常呂間のサロマ湖観光定期バスの運行によって、一躍定期観光路線がクローズアップされました（「北見バス20年」昭和38年10月12日発行） ※資料16 昭和39年頃の「サロマ湖観光路線」（時刻表・路線・運賃表） ※資料17 昭和39年発行「常呂町農村戸別明細図」から栄浦バス停留所の位置 サロマ湖観光路線は昭和40年頃廃止（常呂町百年史） * 資料未確認：昭和43年6月改定の路線図に「網走国定公園サロマ湖周遊観光路線（急行便）常呂ー栄浦ー富武士ー留辺蘂」記載
		8月	栄浦区長からの鑑沸9線道路橋架け替え（車馬交通不可の幅）陳情採択、架け替え時には1.7mから2.5m幅に拡幅検討（広報ところ）
昭和40年	1965	5月6日	道道北見常呂線の共立市街地区・豊川市街地区の道路舗装工事開始（広報ところ）
昭和41年	1966		北見バスの佐常線（常呂ー佐呂間間）運行開始（常呂町百年史） ※資料18 『常呂町史』から北見バス常呂営業所の運行概要：路線・運行便数
昭和42年	1967	5月17日	佐常線の佐呂間ー浜佐呂間廃止（佐呂間町百年史）
		8月1日	サロマ湖畔・栄浦・富武士観光周遊指定接続駅に指定（8月8日記念式） ※資料19 サロマ湖周遊地指定記念式典会場・試乗車写真
		12月	国道238号線常呂町内区間全線舗装完了
			岐阜地区国道の一部舗装になってくる（岐阜百年記念史） ※資料20 昭和40年代中頃の常呂駅前バスの写真 ※資料21 昭和43年5.6月改定のバス路線・時刻表（常呂線、北見・常呂・栄浦線、サロマ湖周遊観光路線、佐常線）
昭和45年	1970		道道北見・常呂線の日吉まで舗装完了（イワケシュ郷土史）
昭和46年	1971	10月11日	北見バスの佐常線：常呂ー浜佐呂間間運行廃止（10月10日）により、常呂ー浜佐呂間に町営バス運行開始：岐阜地区経由（常呂駅前発7:00 16:20 浜佐呂間発7:20 16:40）（広報ところ） * 過疎代行バスの概要 運行路線：佐常線（常呂駅前ー浜佐呂間駅前） 運行キロ数：12.1km 運行回数：2往復 使用車両：マイクロバス24人乗り 委託業者：さろま湖観光株式会社 許可年月日：昭和46年9月30日 許可根拠法令：道路運送法101条 （昭和48年度決算書）
昭和47年	1972	7月24日	北見バスの常呂築港線に替わり、網走バスの一部（常呂ー網走）で常呂築港廻り運行（広報ところ） ※資料22 「広報ところ」掲載の時刻表 道道北見・常呂間の全線舗装（イワケシュ郷土史）

昭和49年	1974	4月9日	北見バスが常呂－栄浦間の路線廃止、翌日から町営バスが路線を一本化して運行（広報ところ） 町営バスの浜佐呂間線（常呂－浜佐呂間）廃止（広報ところ）
		4月10日	常呂・川沿・日吉中学校が統合、常呂中学校開校式・入学式。スクールバス運行開始（広報ところ） ※資料23 スクールバス通学資料・スクールバス写真
			北見バスの常呂－栄浦線廃止に伴い町営バス運行開始。岐阜・栄浦地区に従来の路線を一部路線変更して大型バス（ワンマンバス）を毎日6往復で住民の足確保（広報ところ） ※資料24 「広報ところ」掲載の路線図
昭和51年	1976	4月	網走バスが、網走とサロマ湖を結ぶ網走－常呂－栄浦に路線バスを運行するため、新たに常呂駅前－栄浦間の運行認可申請を道陸運局に申請（5月15日－10月15日の観光シーズン中、常呂－栄浦間を130円で運行予定）（北海道新聞 4/9）
昭和52年	1977	6月	常呂－栄浦間の町営バスに新鋭ワンマンバス運行開始（760万円、定員71人）（広報ところ）
昭和54年	1979	9月1日	サロマ湖第2湖口通水記念「町営バス記念乗車券」発売（ホタテ貝のデザイン半券にサロマ湖の夕日・第2湖口の航空写真・町営バス写真をレイアウト、3枚の切符で400円、5000枚の限定販売（北海道新聞 8/16） ※資料25 町営バス記念乗車券写真 ※資料26 昭和58年11月改正の町営バス路線時刻表
昭和59年	1984	6月4日	運輸省局長など来町、現地ヒアリング。湧網線廃止後、代替バス並行運行する場合の道路状況現地調査。共立－浜佐呂間の道路幅、未舗装、地吹雪、除雪などの対応面から廃止反対意見を表明 （議会だより）
昭和60年	1985	3月4日	国鉄湧網線厳冬期調査実施（国鉄湧網線代替道路全区間の雪害多発箇所、橋梁、交通事故多発箇所歩道、横断歩道及び駅前広場等を北海道運輸局・各自治体・旭川鉄道管理局関係者が大型バス1台に同乗し、全行程を調査／常呂町は雪害多発箇所4ヶ所調査）（厳冬期調査資料）
		11月8日	湧網線打合せ会議開催：常呂町（網走・佐呂間・湧別・上湧別・常呂各市町長及び幹事／湧網線の廃止はやむを得ない、代替輸送は第3セクターとバス転換試算の対比の結果バス運営。 バス会社の系列・鉄道跡地の問題を各市町で要検討・今後の方針として、各市町のバス路線計画・関連施設計画を年内目標に策定、事務局で廃止後の交付金・関連施設の状況を調査） （打合せ会議資料）
昭和61年	1986	2月17日	第3回湧網線特定地方交通線対策協議会開催：網走市。沿線1市4町代表者で第3セクターによる鉄路存続は資金・経営両面から困難を理由にバス転換の方針を決定（広報ところ） *バス輸送計画案の具体的な作成方法の提案、次回の協議議題（会議報告）

		3月	「広報ところ」3月号で、「鉄路存続を断念！湧網線もバス転換に決定」の見出しで1ページにわたり経過報告（広報ところ）
		8月29日	湧網線代替バス輸送計画策定作業グループ第5回会議：網走市 * 湧網線代替輸送道路バス試走（網走バスターミナルー常呂駅ー浜佐呂間駅ー佐呂間駅ー中湧別駅） * 協議会幹事・北見陸運局・旭川鉄道管理局による網走バス使用の代替輸送道路全コース試走と試走結果のまとめ、停留所・代替バス輸送計画策定協議（会議資料）
		11月17日	第4回湧網線特定地方交通線対策協議会開催：網走市。昭和62年3月19日で国鉄湧網線廃止、翌20日から代替バス（網走バス）運行を決定。代替バス路線は、網走ー常呂ー栄浦ー浜佐呂間ー佐呂間ー床丹ー計呂地ー中湧別までの5往復とサロマ湖畔（浜佐呂間ー幌岩ー富武士ー床丹）経由の1往復、1日6往復のバス運行（広報ところ）
昭和62年	1987	3月20日	湧網線代替バス始発式：旧常呂駅前（網走～中湧別を運行） ※資料27 昭和61年11月30日改正 網走バス卯原内の時刻表（常呂着時刻参考） ※資料28 湧網線代替バス始発式写真
昭和63年	1988	4月1日	旧常呂駅跡に交通ターミナルがオープン（昭和62年9月21日着工） ※資料29 交通ターミナル外観・内部写真 ※資料30 11月1日改定「常呂のバス交通ガイド」
平成10年	1998	6月10日	常呂ターミナルに到着する町営バス2便（8時15分着・13時着）と常呂ターミナル発：網走行きの網走バス2便（8時15分発・12時55分）が接続。乗り換えて網走へ行くことが可能に（広報ところ）
平成12年	2000	4月	スクールバスのA路線（常呂ー日吉間）を一部変更（共立の道道10号から共立橋を通り、共立川東地区を経由して東2線道路を走行する路線に変更）* B路線：富丘方面 C路線：町営バス（岐阜・栄浦方面）（広報ところ）
平成14年	2002	4月1日	学校週5日制の実施や便利さを高めるため、町営バスの運行時刻・路線の一部変更（広報ところ） ①土曜日のみの運行便廃止（交通ターミナル発11時20分と常呂中学校前発12時10分） ②運行3便の交通ターミナル発12時20分が13時に ③運行4便の運行経路が交通ターミナル発「とう沸経由」が「9線経由」に変更
平成15年	2003	4月1日	町営バス利用者の通学・通院などの利便性向上と事務・事業経費の軽減を図るため、全区間均一の運賃に改定（全区間均一の運賃：おとな100円、小学生以下50円）（広報ところ）
		10月1日	北見バスの路線一部変更：北見ー常呂線の「北見ー仁頃町」間が「端野町」経由に（広報ところ）
平成16年	2004	1月9日	町営バスに低床バス導入・運行、網走管内の自治体が運営するバスでは初めて（北海道新聞 1/10）

※年表を補強する資料集

■『常呂村史』（昭和12年12月1日発行） ※資料1

大正15年6月、帯広市小守忠左エ門なる者、フォード自動車を以て網走・常呂間を運転せるを以て始まる。当時は、道路極めて不良に付き、1日2往復の運行にも難渋を極め、乗客は途中数回下車して後押しをなしたり。翌昭和2年網走自動車会社設立せられ、定期1日2往復の運行開始、その翌昭和3年6月常呂市街住人白木弥市、常呂・網走間定期路線の権利を獲得し…昭和4年野付牛・常呂定期路線決定するに及び自動車道路網は完成して、往時徒歩または海上発動機船による交通の不便は昔の夢と化し、文明の恩沢に浴するに至れり。

■大正15年に佐呂間町で最初に走った乗合自動車 ※資料2

『佐呂間町開基100年記念 さろまむかしむかし』からイラスト・文を転載
「…お客様がいっぱいになったら、助手の人は、前輪の泥よけのところに腹ばいになって、手でライトをがっしり抱え持って、振り落とされないようにしていた…これは幌型フォード…」語り手：関東勝
*常呂村で最初に走ったフォードの乗合自動車も同じ型と思われます

佐呂間に最初に走った自動車
1926年（大正15年）幌型フォード



『さろまむかしむかし』
から転載

※資料3

「北見バス20年」から転載
昭和8年頃の幌型乗用バス



昭和8年頃の幌型バス

■『北見バス20年』（昭和38年10月21日発行）から引用 ※資料4

…野付牛自動車会社株式会社の…幌型乗用は小型の定員が7名であり、そのため多客の場合は乗り切れず、左右のステップに2、3名ほどを立たせ、15、16名も乗せた上、幌の上には荷物や子どもまで乗せて運行したため、幌が破れて下の客席に落ち、客席から悲鳴が上がる始末、このような大騒ぎをしながら目的地に到着、やれやれと安堵の胸をなで下ろしたとなどの笑えない話も残っている…

定期自動車賃金表

<昭和5年 北海タイムス附録地図>

区 間		里 程	賃 金
		里 町	円 銭
興 部	雄 武	5.30	1.25
元 紋 別	鴻 舞 金 山	5.32	1.20
下 湧 別	中 湧 別	1.10	40
下 生 田 原	下 佐 呂 間	11.00	3.00
留 辺 薬	温 根 湯 温 泉	3.01	70
留 辺 薬	中 佐 呂 間	8.18	1.80
野 付 牛	若 松 温 泉	1.20	50
野 付 牛	常 呂	11.22	2.50
美 幌	川 湯 温 泉	16.10	3.50
北 見 相 生	阿 寒 湖 畔	5.18	1.50
網 走	佐 呂 間	12.18	3.20
網 走	常 呂	8.05	2.20
藻 琴	東 藻 琴	4.00	1.50
古 樋	小 清 水	2.18	80
札 鶴	川 湯	5.00	1.50
小 清 水	川 湯	7.00	2.00

■昭和6年に下生田原ー中佐呂間、中佐呂間ー常呂間を運行した状況 ※資料6

『佐呂間町開基100年記念 さろまむかしむかし』

(平成6年9月1日発行)から引用

「…大正15年、下生田原(現在の安国)の小山宗二という人が、トラック・バス・ハイヤーなどを使っての事業を始めたとき、私は最初から運転手として佐呂間方面の仕事を担当していました。昭和5年まで中佐呂間と下生田原であったが、昭和6年に常呂まで路線が延長され、昭和7年に生田原自動車合資会社と会社に組織され、昭和11年に遠軽町駅前に事務所を移転、遠軽、生田原、佐呂間、常呂と運行した…」語り手：関東勝

定期乗合自動車線（昭和14年9月現在）

< 北海タイムス年鑑 >

運 転 区 間			料 金	所 要 時 間
			円 銭	時 分
瀬戸	牛武	北見	1.20	1.30
雄紋	別	幌之	.40	.40
下	別	鴻中	1.20	1.30
	湧同	湧上	.10	.20
	湧同	湧三	.25	.40
中	湧同	別下	.50	.20
	湧同	別上	.20	.40
遠	同	輕下	.50	1.15
	同	輕下	.15	.30
	同	輕上	1.50	2.40
北見	相	生阿	.80	1.00
	同	雄阿	1.20	1.00
網走	走	常東	1.50	1.30
藻古	琴	藻清	.60	1.20
札置	樋	清置	.40	1.00
下	鶴	小上	.30	.20
	戸	中佐	.60	.30
	生田	原中	.50	.20
	同	原下	.88	1.00
留	同	藥温	1.35	2.10
	同	藥中	.50	.25
野	同	牛若	1.10	1.30
	同	津松	.30	.15
	同	常呂	.80	1.00
	同	端野	1.50	2.00
	同	東相	.20	.30
	同	留辺	.15	.25
	同	幌弟	.25	.35
美	幌	川子	.50	1.00
	布	鴻之	2.50	3.40
丸			2.50	3.00
			1.20	1.10

■代燃車への転換・運行困難状況 ※資料 8

『網走市史 下巻』『北見バス20年』から引用

昭和12年、日華事変勃発とともに石油の消費が規制され、戦局の進展とともに強化、太平洋戦争突入後は全面的に停止されるにいたった。このため、14年頃から代燃車への転換が始まり、間もなく全車両におよんだ。

(『網走市史 下巻』から引用)

代燃車は、薪用・木炭用の発生炉を取り付けるのであるが、当時ガス発生炉を作るにも発生炉や付属部品、その他の資材がなく、大変苦勞したものであった…この代燃車は、平坦区間はどうにか走ることができて、急坂路道にかかるとなるとしても力がなくなるので、乗客に下車してもらい、バスの後押しを願うこともたびたびだった。(『北見バス20年』から引用)

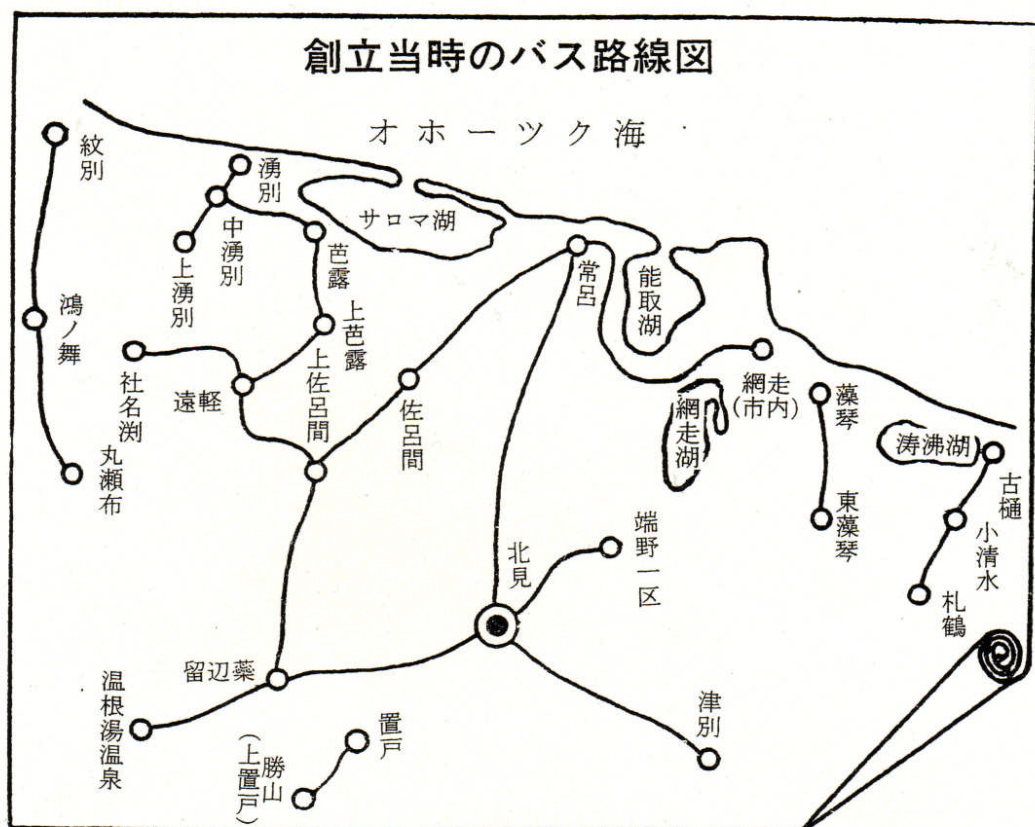


『北見バス20年』から転載 代燃車写真

昭和17年頃の代燃車

■昭和18年北見乗合自動車株式会社創立当時のバス路線図 ※資料 9

『北見現代史』(平成19年1月31日発行)から転載



第1図('931.1. オホーツク新聞)

■昭和20年代前半の冬期間のバス運行に関する記述 ※資料10

『北見バス20年』から引用

…常呂―北見間は当時としてはかなりの長距離であって、吹雪になると途中の民家やバスの中で一夜を明かしたり、付近の民家で暖を取って、その上バスの乗客には食事の炊き出しまでして旅客の安全を図った。このような状態になると除雪も一層困難となり、この区間46キロを除雪して30時間あまりもかかり、不眠不休で風雪と戦い、苦勞の末、終点に到着したということがあったりして、いかに冬期運行が至難であったかということがうかがい知れるのである。

■昭和22、23年頃の卯原内―常呂間を走ったバス及び昭和30年頃

網走―常呂間を走ったバスの写真 ※資料11

『郷土史うばらない』（昭和62年9月6日発行）から転載



昭和22～23年頃、卯原内～常呂間を
走った最初のバス

(提供 菊池氏)



(昭和30年頃に走った、網走～常呂間バス2号車)

■昭和27年10月21日開設の北見バス常呂営業所の写真

※資料12

*昭和35年 常呂駅前の国道（註：当時）舗装工事中の
北見バス常呂営業所（左）と榎本歯科医院（右）



昭和35年2月頃のバス営業所
*後ろは大友呉服店

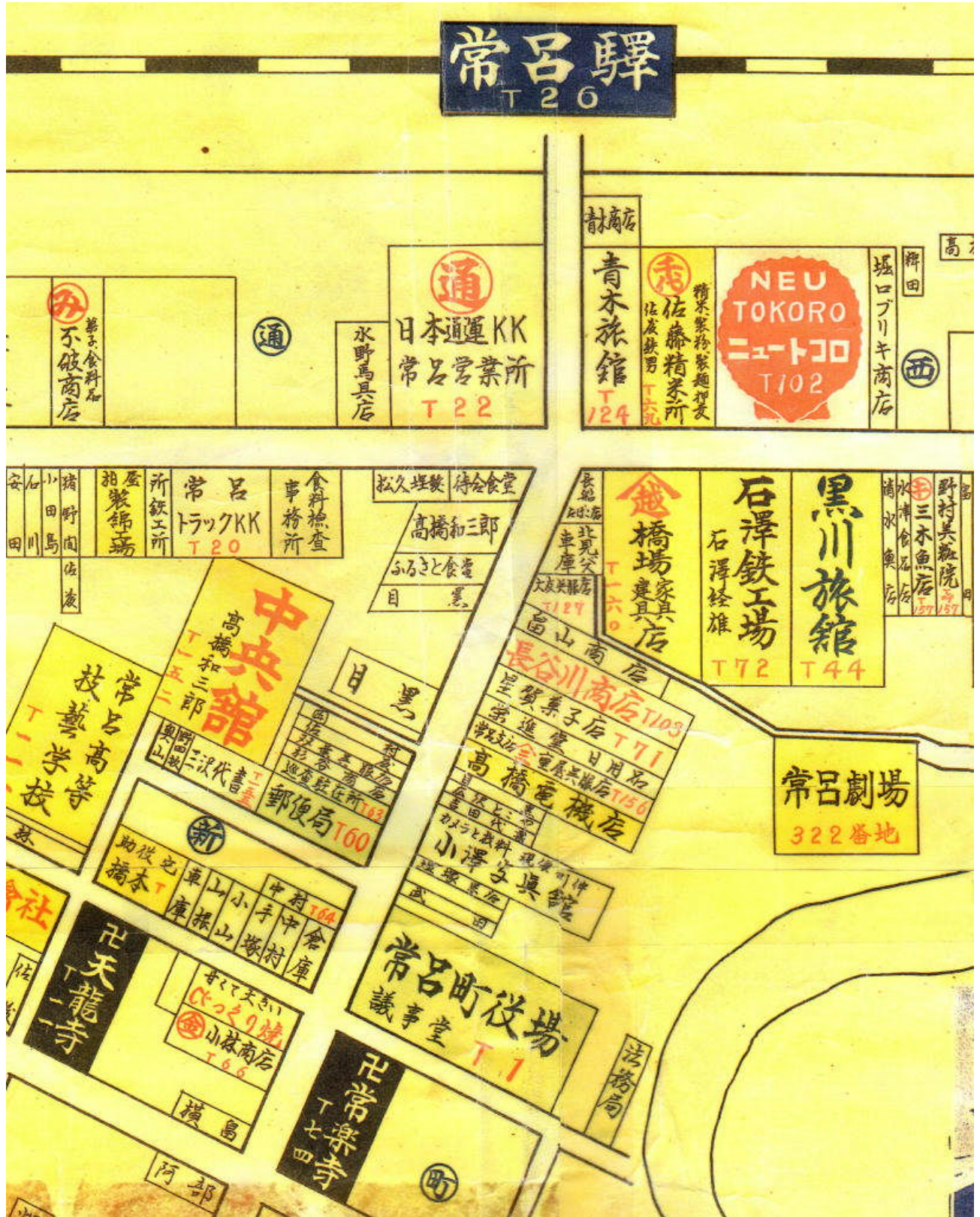


*昭和40年頃の
バス営業所
（現常呂ハイヤー）

■「常呂町市街案内図」昭和29年1月発行から ※資料13

常呂駅前商店街と役場にいたる商店街の駅前交差点右下の「橋場家具建具店」の左側に「北見バス・車庫」が記載

*北見バス常呂営業所開設時にもっとも近い時期の市街図



■昭和30年代前半：常呂橋を通過するバス ※資料14
手前に見えるのは常呂神社鳥居と鳥居の真向かいの安部商店(当時)



■昭和34年頃：本通りのカフェー「鈴蘭」(現河村造花店)から右折し
常呂橋へ向かう北見バス ※資料14
*道路は舗装される前



栄浦の原生花園

常呂町などが観光宣伝

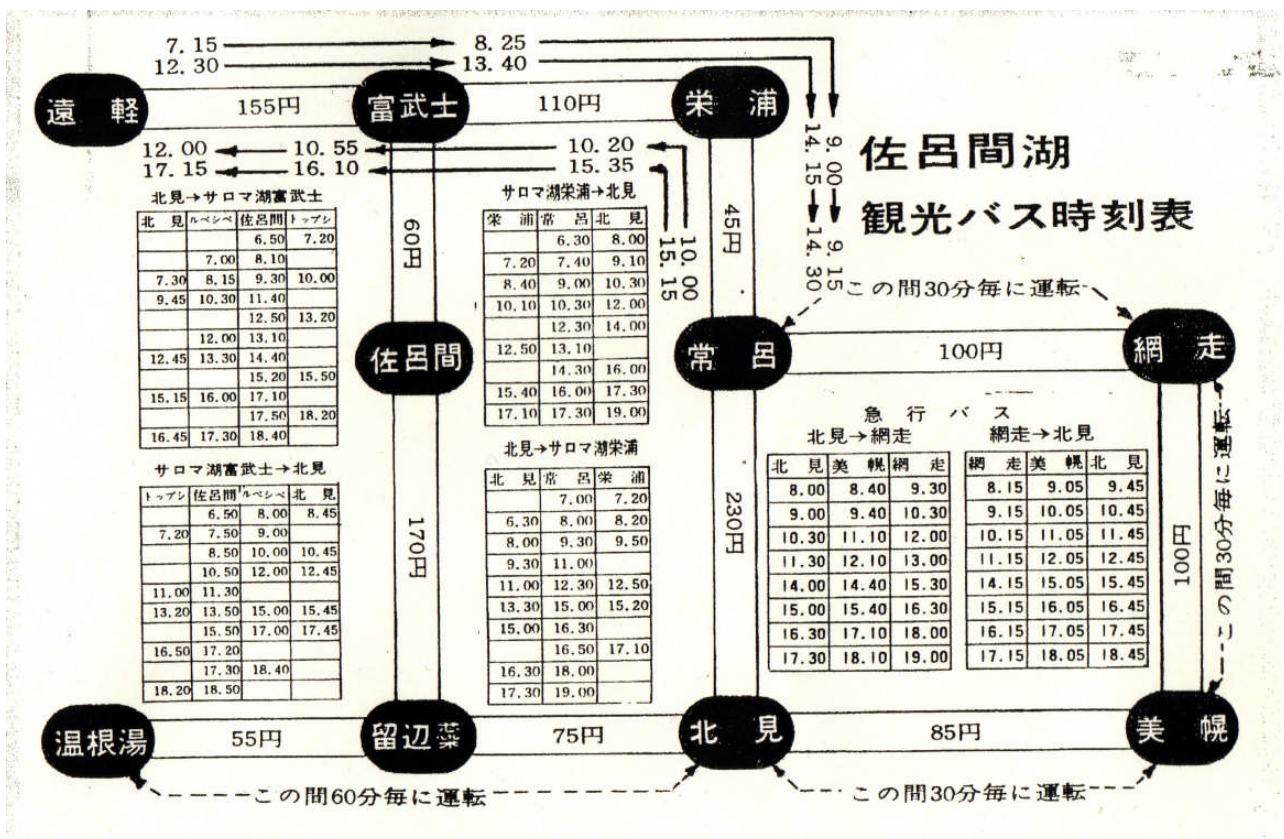
【北見】常呂町と常呂観光協会で、佐呂間湖の東端にあたる栄浦（旧称かき島）の原生花園を大々的に宣伝するとともにボートや遊覧船を佐呂間湖に浮べてハイカーの利便をはかることになった。佐呂間湖東端の原生花園にはサンナ

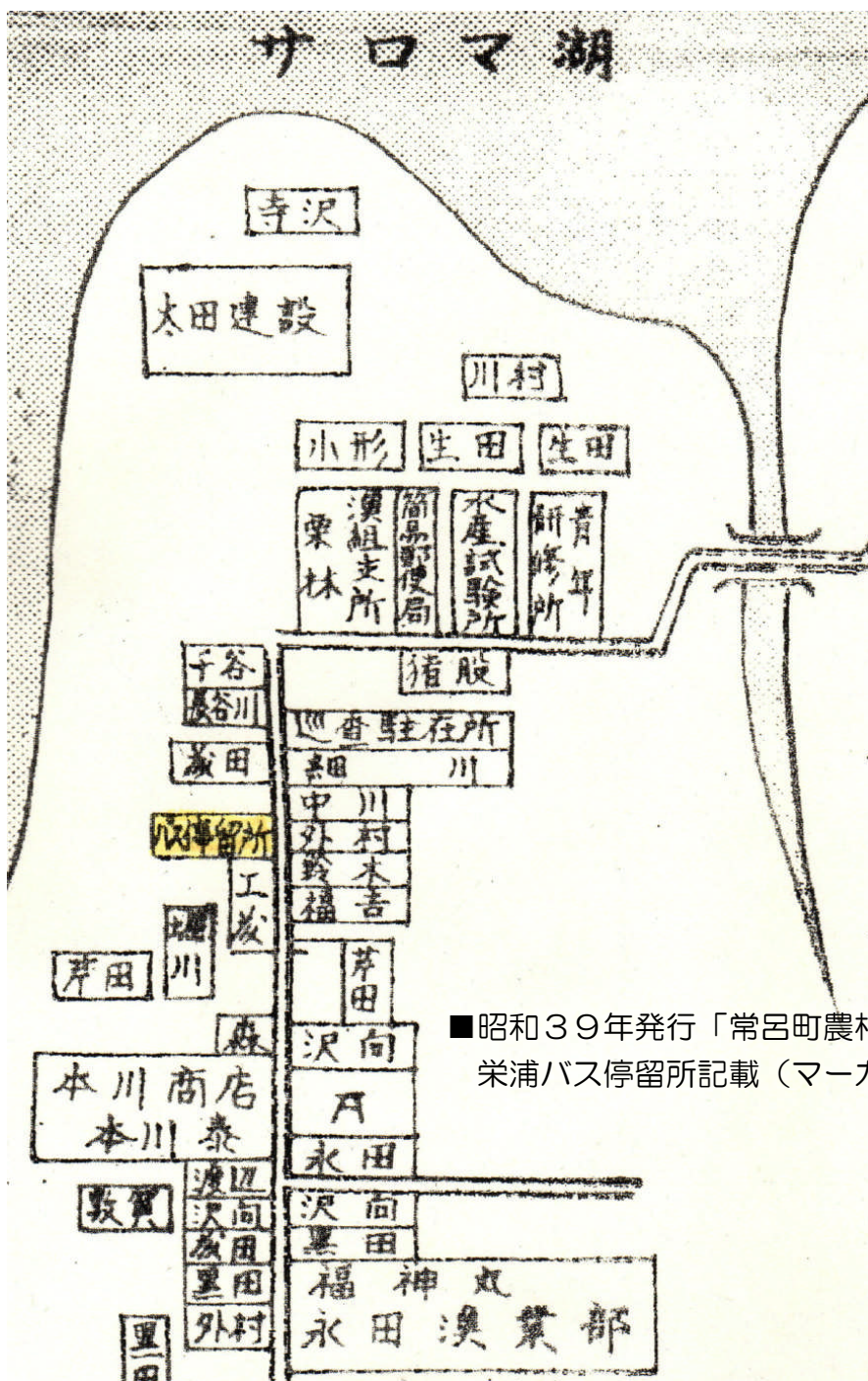
スの群落やハイマツもみられ、本場の北浜に劣らぬ多くの種類があるといわれ、また湖ではカキ、ホタテ、アサリ、シジミ、ナマコなどのほか魚族も豊富で釣アングにはつぎのとおり。

△常呂発七時、十時、十五時十分
△栄浦発七時四十分、十一時、十五時五十分。

■「限定版 網走管内ニュース年報
昭和31年～32年 第5号」
掲載の新聞記事（昭和31年6月）
※資料15

■昭和39年頃の「サロマ湖観光バス」路線図・時刻表・運賃 ※資料16





■昭和39年発行「常呂町農村戸別明細図」※資料17
栄浦バス停留所記載（マーカー部分）

■昭和41年 北見バス株式会社常呂営業所概況 ※資料18

常呂線（北見ー常呂）	8往復	44.7km
佐常線（常呂ー佐呂間）	3往復	29.9km
築港線（常呂ー築港）	5往復	2.8km
栄浦線（常呂ー佐呂間）	6往復	9.2km
佐呂間湖観光線		
（常呂ー遠軽）	2往復	70.6km

『常呂町史』（昭和44年3月20日発行）から転載



■昭和42年8月8日
サロマ湖周遊地指定
記念式典
※資料19

上：式典会場の町営簡易宿泊施設「かき島荘」併設のユースホステル
下：サロマ湖周遊地指定記念の試乗バス
*車体に「一番新しい周遊指定地 国定公園サロマ湖」の文字

*「あのときの常呂・写真館」
VOL 9（サロマ湖周遊地
指定）に、経過や写真を
掲載



*昭和40年代中頃の常呂駅前に並ぶ北見バス ※資料20



■「常呂町内案内図」掲載の昭和43年のバス時刻表

(路線・キロ数・料金) 常呂町・常呂町観光協会発行

※資料21

(43.6改正)

バス時刻表

● 常呂線 (常呂—網走間)

停留所名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	キロ程	料 金
常 呂	7.30	8.20	9.30	10.20	11.20	12.20	13.20	14.20	15.20	16.20	17.20	18.40		常呂より 大人 130円 小人 65円
網走駅前	8.22	9.12	10.22	11.12	12.12	13.12	14.12	15.12	16.12	17.12	18.12	19.32	37.1	
バス会社	8.30	9.20	10.30	11.20	12.20	13.20	14.20	15.20	16.20	17.20	18.20	19.40	39.0	
バス会社	6.30	7.10	8.20	9.10	10.10	11.10	12.10	13.10	14.10	15.10	16.10	17.30		
網走駅前	6.34	7.14	8.24	9.14	10.14	11.14	12.14	13.14	14.14	15.14	16.14	17.34	1.9	
常 呂	7.30	8.10	9.20	10.10	11.10	12.10	13.10	14.10	15.10	16.10	17.10	18.30	39.0	

(43.5.12改正)

● 北見、常呂、栄浦線 (北見—常呂—栄浦 (かきじま) 間)

停留所名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	キロ程	料 金
栄 浦 (かきじま)		7.25		9.15		12.00		13.50		16.30 (16.10)	18.00			大人 60円 小人 30円
常 呂	6.40	7.45	8.30	9.35	10.00	12.20	12.30	14.10	14.50	16.50 (16.30)	18.20	18.20	K 8.5	
北 見	8.10		10.00		11.30		14.00		16.20	18.20		19.50	K 45.8	常呂より
北 見		6.45	8.40		10.00		12.00	14.00	15.45		17.30			大人 290円 小人 145円
常 呂	7.05	8.15	10.10	10.20	11.30	13.20	13.30	15.30 (15.40)	17.15	17.40	19.00		K 37.3	
栄 浦 (かきじま)	7.25	8.35		10.40		13.40		15.50 (16.00)		18.00			45.8	

10月1日より8・10・の常呂～栄浦間は () 内の時間となります (43.6 改正)

● 網走国定公園サロマ湖周遊観光路線 (急行便)

(常呂—栄浦 (かきじま) —富武士—留辺蘂間)

1	2	3	4	停留所名	5	6	7	8	キロ程	料 金
6.35	9.00	12.40	14.50	常 呂	7.05	11.25	13.20	17.25		常呂より
6.50	9.25	13.05	15.15	栄 浦 (かきじま)	6.50	11.10	13.05	17.10	K 8.5	大人 小人
	10.25	14.05	16.15	富 武 士		10.10	12.05	16.15	25.7	60円 30円
	11.40	15.20	17.30	留 辺 蘂		8.45	10.40	14.50	72.0	180円 90円
										440円 220円

1,3,4,5,6,8 は 6月1日～9月30日まで運行

2,7 は 7月1日～9月30日まで運行

● 佐、常 線 (常呂—浜佐呂間)

停留所名	1	2	キロ程	料 金
常 呂	7.00	15.30		大人 60円 小人 30円
浜佐呂間	7.20	15.50	12 K	
浜佐呂間	7.25	15.55		
常 呂	7.45	16.15	12 K	

停留所名	1	2	キロ程	料 金
常呂駅前	7.50	16.30		大人 20円 小人 10円
築 港	8.00	16.40	3 K	
築 港	8.00	16.40		
常呂駅前	8.10	16.50		

■「広報ところ」掲載の昭和47年7月24日付けの網走バス
(網走ー常呂線)の築港 ※資料22

(7) 昭和47年8月10日発行

広 報 と こ ろ

網走バス(常呂～網走線)の
一部が常呂築港廻りに変更

七月二十四日から網走バス(常呂～網走線)の一部が常呂築港廻りに変わりました。

これは北見バスの常呂築港線に変わり運行されるもので築港廻りです。次のとおりです。どうぞご利用ください。

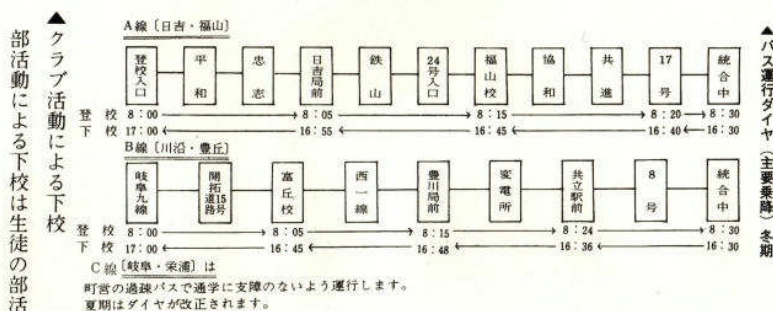
なお、これ以外の網走発七時三十分、八時五十分、十時、十一時二十分、十二時三十分、十三時五十分、十五時、十七時三十分と、常呂発八時四十分、十時、十一時十分、十二時三十分、十三時四十分、十五時、十六時十分、十八時四十五分はじゆうらい通り国道廻りで運行されます。

8時35分	18時40分	網 走	6時25分	16時30分
7:41	17:46	築 港 入 口	7:13	17:18
7:40	17:45	常 呂 港	7:14	17:19
7:39	17:44	水産試験場	7:15	17:20
7:38	17:43	豊浜公民館	7:16	17:21
7:35	17:40	常 呂	7:25	17:30

■「広報ところ」の通学及びスクールバス路線・時刻表
※資料23

昭和49年2月15日発行 4)

広 報 と こ ろ



通学はこのようになります

▲通学の方法
統合にあたって、いろいろご心配いただいた通学方法は、大きく分けて次のとおりとなります。

▲バス運行の方法
現在の常呂中学校の通学区域から通学する生徒(栄浦、岐阜、富丘の一部)

▲通学費
バス料金全額
町費負担

現在の常呂中学校の通学区域から通学する生徒	従来の通学方法と原則的に変りない。(常呂栄浦線は町営の過疎バスの運行となる見込み)	スクール専用バスで通学する(一般人の乗り込みは禁止です)
現在の川沼、日吉中学校の通学区域から通学する生徒	バス料金全額町費負担	スクールバス運行に必要な経費全額町費負担

▲バス運行の方法
現在の常呂中学校の通学区域から通学する生徒(栄浦、岐阜、富丘の一部)

▲通学費
バス料金全額
町費負担

▲バス運行の方法
現在の常呂中学校の通学区域から通学する生徒(栄浦、岐阜、富丘の一部)

▲通学費
バス料金全額
町費負担

▲バス運行の方法
現在の常呂中学校の通学区域から通学する生徒(栄浦、岐阜、富丘の一部)

▲通学費
バス料金全額
町費負担



※資料23 スクールバス写真

■「広報ところ」掲載の昭和49年4月運行開始の町営ワンマンバス（栄浦線）運行路線図・停留所名 資料24



■町営バス栄浦線：常呂駅前で乗車する乗客 資料24



■町営バス栄浦線：栄浦で乗降する乗客 資料24

*バスの正面上に「常呂→栄浦→常呂」の表示



■昭和54年9月1日発売
 さろま湖第2湖口通水記念
 町営バス乗車券

※資料25



■「広報ところ」掲載の昭和58年11月改正
 の町営バス栄浦線時刻表（冬時間）

※資料26

常呂町営バス

〔冬時刻〕

常呂町営バス（栄浦線）が昭和58年11月1日から次の

バス番号 經由地	1 ↓	2 ↓	3	4	5	6 ↓	3番4番の 土曜日の運行	
停留所名	9線經由	鑑沸經由	鑑沸經由	鑑沸經由	9線經由	9線經由		
常呂中学校前								
常呂駅前	7:30	8:35	13:00	14:50	16:50	18:10	12:15	13:45
栄町								
町民センター前								
貝ガラ工場前	7:35	8:40	12:55	14:45	16:45	18:15	12:10	13:40
岐阜5線								
鑑沸	7:40	8:45	12:50	14:40	16:40	18:20	12:05	13:35
漁協支所入口								
栄浦								
さろま湖観光ホテル前	7:45	8:50	12:45	14:35	16:35	18:25	12:00	13:30
青年の家前								
さろま湖入口	7:50				16:30	18:30	11:55	13:25
11線								
10線6号		8:55	12:40	14:30				
9線	7:55				16:25	18:35	11:50	13:20
9線8号								
9線6号	8:00	9:00	12:35	14:25	16:20	18:40	11:45	13:15
8線								
7線								
錦水小学校前								
佐藤商店前	8:05	9:05	12:30	14:20	16:15	18:45	11:40	13:10
岐阜橋								
3線								
貝ガラ工場前	8:10	9:10	12:25	14:15	16:10	18:50	11:35	13:05
町民センター前								
栄町								
常呂駅前	8:15	9:15	12:20	14:10	16:05	18:55	11:30	13:00
常呂中学校前	8:20				16:00			12:55
停留所名	1	2	3 ↑	4 ↑	5 ↑	6	3 ↑	4 ↑
バス番号 經由地	9線經由	鑑沸經由	鑑沸經由	鑑沸經由	9線經由	9線經由	鑑沸經由	鑑沸經由

◎時刻の入っていない停留所にも停車しますのでご利用下さい。

■昭和61年11月30日改正の網走バス時刻表（卯原内発着の時刻表）

『郷土史うばらない』から転載 ※資料27

バス時刻表								
61. 11. 30 改正 ▲漁港經由								
停留所名	1▲	2▲	3▲	4▲	5▲	6▲	7▲	8
網走方面 平和駅(発)	8:11	8:41	10:41	11:46	13:31	15:11	17:11	18:41
卯原内	8:15	8:45	10:45	11:50	13:35	15:15	17:15	18:45
東卯原内	8:20	8:50	10:50	11:55	13:40	15:20	17:20	18:50
二見ヶ岡								18:54
バスターミナル(着)	8:44	9:14	11:14	12:19	14:04	15:44	17:44	19:14
停留所名	1	2▲	3▲	4▲	5▲	6▲	7▲	8▲
常呂方面 バスターミナル(発)	6:40	7:10	9:10	10:15	12:00	13:40	15:40	17:10
二見ヶ岡	6:58							
東卯原内	7:01	7:31	9:31	10:36	12:21	14:01	16:01	17:31
卯原内	7:06	7:36	9:36	10:41	12:26	14:06	16:06	17:36
平和駅	7:10	7:40	9:40	10:45	12:30	14:10	16:10	17:40
常呂駅(着)	7:34	8:04	10:04	11:09	12:54	14:34	16:34	18:04



■昭和62年3月20日
湧網線代替バス始発式
(旧常呂駅前) ※資料28



■昭和63年4月1日オープンの交通ターミナル外観・内部写真 ※資料29



上：交通ターミナルの正面



上：1F バス待合室



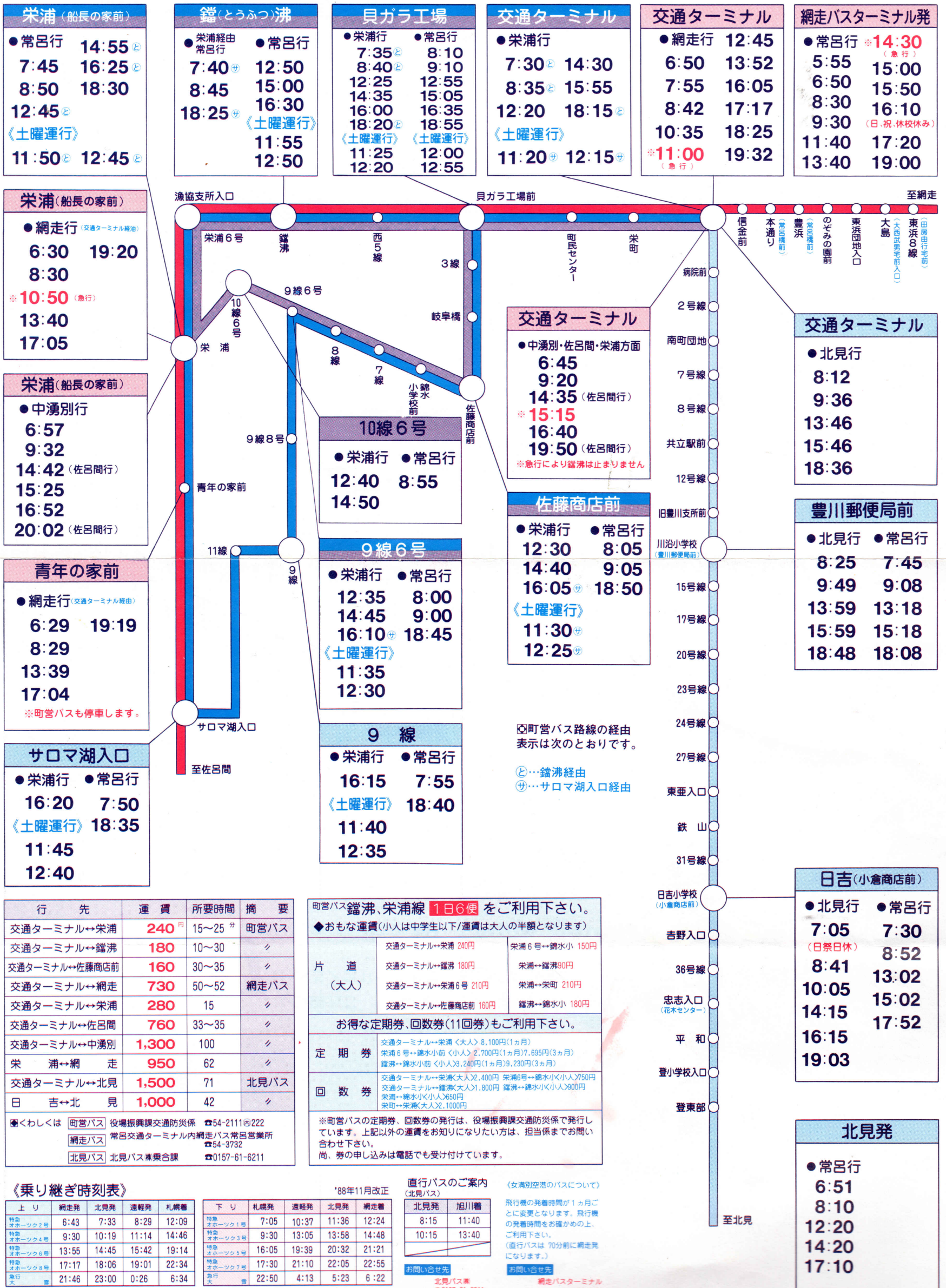
*その他3枚：2F 湧網線資料展示コーナー



ところのバス交通ガイド

凡例	栄浦線
	鑑沸線
	北見・常呂線
	常呂・湧網線
	停留所

※資料30 昭和63年11月1日改定「広報ところ」付録



▶昭和37年7月の常呂小学校修学旅行出発のようすを撮った写真があったので付録として紹介します。

＊常呂駅前からバス2～3台に分乗して出発

＊子どもの多さと見送りの家族の多さに驚きます

当時の子どもたちの服装／修学旅行スタイルも分かります



上：左手奥に見えるのが北見バス常呂営業所、その中央奥が大友呉服店

右手前が松久食堂、その奥は榎本歯科医院

右：バスの左側は、日本通運

常呂営業所

下：バス右側が日本通運常呂絵営業所



▶昭和56年2月、さろま湖観光ホテル（昭和49．7－59．11）前停留所の町営バスの写真も付録として掲載します。

